

人は、現状に「不満」があると何かを変えようと思う。しかし、先が読めない「不安」から行動を起こせずにいることが多い。「不満」と「不安」を天秤にかけた時、結果が分かる安心感から「不満」を選び、「どうせ〇〇だから」と自己正当化の理由をさがしながら、「不満」の現状を受け入れる。先が読めない「不安」があっても、現状を変えて「より良い変化」を求める行動を起こすには勇気が必要である。

1. 友だちはいないとだめなの？

友だちは大事にすべきである。でも、いない状態に恐れすぎていないだろうか？気の合う友だちでも、意見が違ったり時には嫌な所も見えたりするのは当然のことである。ケンカが起きるのは当たり前である。ケンカの後で前よりも仲が良くなることもあれば、そのまま離れてしまうこともある。どっちも悪いことではない。友達かどうかは、お互いが自分の心で決めるものだからである。ただ、ケンカをしたときも、お互いを思いやる心を持ってほしいと思う。

先生方は、ケンカが起きたときに「あなたはどうしたいの？」「どうなるといいの？」と自分で決めるように促していく。どうしてもトラブルになるのであれば、「敬して近づかず」を伝えていく。これは、どんな人も幸せになろうと生きているし大切に思っている家族もいる。だから、「存在を否定せずに命あるものを尊敬はするが、今は距離を置く」という生き方である。よくトラブルが起きたときに子どもたちは、「相手が変わらないこと」に腹を立てている。「過去と他人は変えられない」という不条理（変えることができないもの、答えがないもの）の対処法は、「受け止める」しかないことを子ども達に伝えていきたいと考えている。

2. 友だちにひどいことを言ってしまったら・・・

謝るのはすごく勇気がいる。勇気は、正直に自分のやったことと向き合わなければ出てこない。そこには、自分の過ちと冷静に向き合う覚悟もいる。「やってしまったこと」に傷つき、いつまでも自分を責めることを「後悔」という。後悔を使う人の目的は、傷ついた相手よりも自分の方が傷つくことで罪の意識から逃れようとする事である。「やってしまったこと」と向き合い、同じことをくり返さないように「何をどう変えていくか」を考えていくのが「反省」である。謝る勇気を持てた人は、相手が謝ってきたときに勇気を出した結果だと理解できるので、「許す」という感情が出てきやすい。また、許してくれるかどうかは、相手が決める事である。許してくれないのは「心が狭い」からではなく「それだけ心が深く傷ついた」と理解しなくてはいけない。でないと「私がこんなに謝っているのに」と逆ギレするという恥ずかしい生き方を身につけてしまう。